

**【BS ジャパン】3月24日(土)、25日(日)2夜連続放送**

**LEXUS presents POWER～心、動かす力～**

ナビゲーター・高橋克典が、様々なジャンルで人々の心を動かしている  
4人の第一人者たちと“心を動かす”をテーマに語り合います。



ナビゲーター・高橋克典が様々なジャンルにおいて人々の心を動かしている第一人者たちと「心を動かす」をテーマに語り合う2夜連続の特別番組『POWER～心、動かす力～』（前編:3月24日(土)22:00～22:30、後編:3月25日(日)19:30～20:00）。中村拓志(建築家)、森理世(モデル)、紀里谷和明(映画監督)、高木康政(パティシエ)という、様々なジャンルの4人をゲストに迎え、人の心を動かす領域の凄みを浮き彫りにします。

**【放送日時】**

前編:3月24日(土)22:00～22:30 (再放送:3月25日(日)16:50～17:20)

後編:3月25日(日)19:30～20:00 (再放送:3月26日(月)22:30～22:54)

**【タイトル】** LEXUS presents POWER～心、動かす力～

**【出演者】**

ナビゲーター:高橋克典

3/24(土)前編のゲスト出演者:中村拓志(建築家)、森理世(モデル)

3/25(日)後編のゲスト出演者:紀里谷和明(映画監督)、高木康政(パティシエ)

## 【内容】

3/24(土)前編

中村拓志&lt;建築家&gt;

明治大学大学院修了後、隈研吾建築都市設計事務所を経て、2002年 NAP 建築設計事務所を設立。住宅や美術館、商業施設の設計で国内外多数の受賞歴を持つ。原宿・表参道交差点に建つ「東急プラザ表参道原宿」の国際コンペでは、建物上空に森を浮かばせるような独特なデザインで勝利し、施設全体のデザインを設計した。建築と身体の間から生まれるコミュニケーションや感情をテーマに設計をしている。



トークのテーマは“中村拓志にとっての建築とは？”からスタート。

中村は「建築というのは、ふるまいのデザイン」と話した上で、「建物の中にいる人間の動きをデザインすることが重要だ」とその理由を語る。そして、栃木県・小山市の「録ミュージアム」や羽田空港の「JAL ラウンジ」など自身の作品の写真を見ながら、それぞれの建物に

込められたこだわりを語る。

また、自身の転機となったという、東京・恵比寿にある雑木林の木をいっさい切らずに建てた、森のなかにたたずむ集合住宅「ダンシングツリー シンギングバード」。中村はどのような発想や工夫をして設計をしたのか？そこには、自然を人間の枠にはめるのではなく、人間が自然に寄り添うという中村の考えがあった。

そんな中村に“心を動かされた”建物をたずねると、「偉大な建築家の作品よりも動物や鳥の巣などに興味がある」と答えたいうえで、自然を思う中村ならではの理由を語る。

森 理世&lt;モデル&gt;

MISS UNIVERSE 2007 / モデル、ダンス アーティスティック・ディレクター

2007年度「ミス ユニバース世界大会」優勝。ニューヨークを拠点とし、15ヶ国で HIV AIDS の啓蒙活動や難病の子どもたちの支援活動「プロジェクトサンシャイン」をはじめとした様々なチャリティー活動に従事してきた。現在はモデルやチャリティー活動とあわせ、ダンスアカデミーのアーティスティックディレクターとして子どもの育成やダンス&ビューティーの指導にあたるなど、その活動の範囲を広げている。

2007年、日本人として48年ぶりに「ミス ユニバース世界大会」で優勝した森は、「もし、ミス ユニバースが外見のみで決められてしまう大会であつたら、たぶん挑戦しなかった」と言い、「内面の自信や夢がある女性を募集しているというので、“それなら”とがむしゃらに頑張った」と告白する。そのがむしゃらさは「ミス ユニバースおたく」になるほど大会を徹底的に研究し、優勝者の共通点を探そうとしたことに表れる。技術的な共通点は残念ながら見つからなかったが、ただひとつ、技術的なことではない共通点を感じ、森も実践したという。その共通点とは？

また、森の原点になったのがダンス。単身アメリカに渡りダンスを学び、厳しい現実と向き合いながらブロードウェイの舞台を踏むという夢を叶えた。森は、様々な経験を通じて、これまで与えられてきた愛情を、今度は自分が発していきたいという思いから、現在、地元・静岡で子ども達にダンスを教えている。将来は自分の作る舞台で生徒達が輝き、「静岡発」で世界に飛び立ってほしいと思いを語る。



### 3/25(日)後編

紀里谷和明<映画監督、FREEWORLD 代表>

1994年より、NYをベースにフォトグラファーとして活動を開始。1999年以降、拠点を東京に移し、宇多田ヒカル、SMAP、MISIA、サザンオールスターズ、浜崎あゆみなど、数多くのCDジャケット・ファッション写真・ミュージックビデオを手がけ、独自の世界観で注目を集める。2004年公開の初監督作品「CASSHERN」、2009年公開の「GOEMON」では、その斬新な映像が多くの観客の心をつかんだ。

高橋はまず、紀里谷の独特の映像センスがどう育っていったのかに興味を抱く。それに対し「自分が何が好きなのか、それにどれだけ忠実でいられるか」と答える紀里谷。そして「皆、頭の中にはすごいインスピレーションがあるのに、ほとんどの人がそれを具現化しない。自分はそれを執拗に追いかけた」と明かす。

中学卒業を前に単身アメリカへ渡った紀里谷は、ビジネスマンを目指していたが、カメラマンに転身。順調に仕事をしていたときに、ある雑誌の編集者に言われた一言が自分の転機になり、そこから自分のスタイルが確立されていったという。紀里谷が「目からウロコが落ちた」という一言とは・・・。



また、話は紀里谷の映像に対する細部までのこだわりに及ぶ。そこまでこだわられるのは、自分だけでなく、スタッフの力も大きいという紀里谷。スタッフとの間に多少の方向性の違いがあっても「自分がおおまかに目標を定め、皆が同じ方を向いていけばたどりつく」と話すと、俳優であり歌手でもある高橋は「音楽のセッションと同じですね」と共感する。

「以前にやったことはもう古い」と常に走り続ける紀里谷。今後を尋ねた高橋に対する、紀里谷の答えとは？

高木康政<パティシエ、ルパティシエタカギ・オーナー>

都内有名店で修行後、2度目の渡欧をし、4年間修行。2000年に世田谷に「ルパティシエタカギ」、2002年に「ルショコラティエタカギ」をオープン。自ら海外に飛んでハイクオリティな素材を調達し、チョコレートに関してはカカオ豆のみならず、焙煎方法やチョコレートの製造方法にまでこだわり、タカギオリジナルのチョコレートも手掛ける。現在7店舗のオーナーシェフを務め、大手食品メーカーの商品開発にも携わっている。

高橋が「チョコレートおたくだそうですね」とたずねると「そうかも知れないですね」と笑う、日本が誇るトップパティシエ・高木康政。味にこだわり、チョコレート菓子を作る手前の“原盤”と呼ばれるものまで作ってしまったという。

高木の原点は、はじめてフランスに行ったときにある店で食べた“酸っぱい”チョコレート。今まで食べたことのない味に心を動かされ、その奥深さにはまっていったのだという。そんな高木が生み出した全く新しいチョコレートが、自身の店の看板商品「ピネン」。あるものを使って作られている、このチョコレートを試食した高橋は、味に驚く。

高木はフランスから帰国後、自分の作るものに対し「つまらない」と、思わぬ言葉を浴びせられる。そこで、魅せ方を学びにアメリカを訪れた高木は、ダイナミックでサプライズに溢れる「楽しませ方」に衝撃を受ける。

高橋の前には、その経験から生まれた驚きのスイーツが登場。見た目は、白いお椀が伏せられたような形に「なんですか!？」と驚く高橋だが、高木はさらにサプライズを仕掛ける。

そんな、美味しく、そして食べる人をワクワクさせる色合いやデザインにもこだわる高木が目指すこれからは？

